

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会 第20期通常総会議事

2025年9月23日（火祝）15:30

場所：オンライン会議システムzoom

議事次第

1. 開会（司会： 櫻 博子 ）

2. 理事長挨拶： 清水 善和

3. 総会成立の確認（報告：奥野玉紀）

	返信あり		返信なし	計
	出席	欠席・委任状提出		
正会員	11	22	20	53
比率	20.8%	41.5%	37.7%	100%
				62.3%

4. 議長の選出：

5. 議事録署名人の選出： 波形克則・奥野玉紀

6. 議事（審議事項）

6.1. 第1号議案：第20期（2024年7月1日～2025年6月30日）事業報告および収支報告

6.2. 第2号議案：第21期（2025年7月1日～2026年6月30日）事業計画および収支予算

6.3. 第3号議案：役員選任

満場一致で可決されました。

7. 質疑、意見等

8. 閉会

第1号議案 第20期2024年度(2024年7月1日~2025年6月30日)事業報告書

第20期の事業報告は、以下のとおりである。

※「担当」は、理事/監事/ボランティアを記載した（敬称略）。

(1) ガラパゴスに関する環境教育及び普及啓発に係る事業

- ① 「ガラパゴス写真コンテスト2024」開催（9月）。応募作品数26点。ガラパゴスの高校生～大学生も応募した。選考は総会後に参加者の投票にて最優秀賞1点、優秀賞12点を決定。このうち7点がガラパゴスの若者写真家クラブの作品だった。
- ② 「ガラパゴスカレンダー2025」制作・頒布。コンテスト優秀賞作品を採用。表紙はガラパゴスの若者が撮ったペンギンの写真になった。11月下旬に600部印刷完成。12月頭に発送開始。ウェブショップ等で頒布145部、会員配布108部、講演先学校等に進呈約150部。2月の東京都事業でガラパゴスに行った際に、コンテストで優秀賞をとった現地の高校生やチャールズ・ダーウィン財団に進呈50部。2025年8月の講演会で参加者に配布（80部）。残り約30部。制作担当：波形、里見、飯崎、奥野
- ③ 講演普及活動：東京純心女子高等学校FYM女性講演会：奥野（東京八王子7/12）、自由の森学園高校体験授業（埼玉飯能8/11）、帝京大学外国語学部国際日本学科講義（東京八王子10/3、10/4）、檜原村観光協会研修（東京檜原10/25）、AFS日本協会 Junto事業講義（オンライン3/12）、ペンギン基金講演（ペンギントーキング。東京竹芝4/13）、日本女子大学講義（東京目白5/16）、他、企業研修やオンラインでのセミナーなど。
- ④ コーヒープロジェクトの普及：ガラパゴスコーヒーの日本での売り上げが、ガラパゴスのコーヒー農家の保全への協力を支えるプロジェクト。賛同・協力してくださるカフェや珈琲店、企業へアプローチした。ガラパゴスコーヒーのプロモーションとして、エクアドル大使館よりイベントに招待されたり販売させてもらったりした（10/20 ラテンアメリカンバザー、10/23 国連大学、10/27 高輪地区祭り、6/9 エクアドルフェスetc.）。

(2) ガラパゴスに関する情報の収集および提供に係る事業

- ① メディア対応：テレビ局などの問い合わせにメールで回答した、他。
- ② ホームページによる情報発信：今年度は更新をしていない。→人員不足
- ③ SNSによる情報発信：Facebookにて、現地の情報を引用した情報の発信を行った。約100記事を発信。担当：波形、奥野
- ④ その他：JTBの「My Pleasure WEBマガジン」という会員専用サイトへ記事掲載。
<https://www.jtb.co.jp/myjtb/stage/mypleasure/>
 他、企業や大学などからの個別の問い合わせ対応、隨時。

(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業

特になし。

(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業

1) チャールズ・ダーウィン財団(CDF)の保全活動を支援

当会の仲介によるカシオ計算機株式会社とCDFとの提携により、同社より腕時計G-SHOCKのCDFコラボモデルが昨年度発売されたが、第2弾として、新たに2種類のモデルが発売され、売り上げの一部がロイヤルティとしてJAGAを通じてCDFに寄付されました。これによって、CDFが実施している多くの保全活動を支援しました。カシオ計算機株式会社とCDFとのコラボモデルの発売（第3弾）は、2025年度も計画されています。

また、この寄付と共に、毎年実施されているペンギン、コバネウ、アホウドリの生態調査を本年度も支援した。海鳥調査の報告は、こちらのCDFのサイトをご覧ください（英語）。→ <https://x.gd/AYEqs>



左(赤)がウミイグアナモデル、右(白)がガラパゴスペンギンモデルのG-SHOCK。大変好評のこと。

第 20 期 2024 年度（2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日）事業報告書

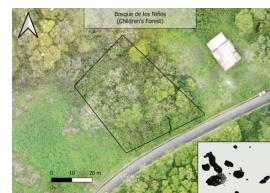
2) CDF スカレシア森林再生プロジェクト支援

BESS フォレストクラブ、JAGA 会員、一般の方、ガラパゴスコーヒーを購入した珈琲店や消費者の方などからの寄付によって、2024 年度もイサベラ島高地の固有植物スカレシア（コルダータ種）の森林再生事業を支援しました。イサベラ島のスカレシアの森は、かつて 17,000ha に広がっていましたが、生育場所の湿潤な気候により農地としての開拓が進み、既に開拓が終わった現在では、農耕放棄地となった場所に外来種が繁茂して広がり、スカレシアは残り数十株まで減少し、絶滅の危機に瀕しています。また森に営巣していた陸鳥の生息数も大きく減っていることが報告されています。チャールズ・ダーウィン財団では農地の所有者（農家）と共に、外来植物の駆除とスカレシアの植林をするプロジェクトを行っています。

CDF では、このプロジェクトの一環として、地域住民へのプロジェクト参加を促す啓発活動を行うこととなり、かつてこの島の子どもたち向けにスカレシアで作られた「こどもたちの森」を復活させ、子どもたちが訪問することで、絶滅に瀕したスカレシアへの認知を高めると共に、プロジェクトの持続可能性を強化し、地域社会の長期的な関与を促すものとなります。

（事務局コメント）CDF の素晴らしいところは、目の前の保全に向き合うと共に、常に先を見て打てる手を打つところで、子どもたちの教育については未来を作るために特に重視しています。このようなプロジェクトを支援することができ光栄です。このプロジェクトの報告書の全文は、こちらからご覧になれます。

https://drive.google.com/file/d/1DEFLg-YjoLnoCtLXRdY1BN6GsnbW_0m/view?usp=drive_link



「こどもたちの森」は 1830 平方メートルの広さ。近くにはスカレシアの苗を生産する種苗所がある。



3) CDF 視聴覚資料デジタル化プロジェクト支援

2019 年度より始まったこのプロジェクトは、前田建設工業株式会社（東京）と JAGA 会員の支援で、5 年間続きました。このプロジェクトによって、かつて CDF の図書室に棚積みされていた資料がデジタル化されて世界中に公開されるようになりました。資料は以下「ガラパグアーナ GALAPAGUEANA」サイト（以下 URL）にて公開されています（スペイン語と英語の 2 カ国語対応）。ガラパゴス史を調べるにはこれ以上ない量と質です。

<https://galapagueana.darwinfoundation.org/home.html>

また、世界一のガラパゴス資料の保管庫とされる CDF の図書館のサイトがリニューアルして、こちらも世界中から閲覧できるようになりました。このリニューアルにも、JAGA からの支援が使われています。

G.T. Corley Smith Library ↓

<http://biblioteca.fcdarwin.org.ec/cgi-bin/koha/opac-main.pl>

(5) ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業

島でのゴミ処理について、専門家や専門技術を持つ企業を訪ね、情報収集した。

(6) 調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業

特になし

(7) ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業

東京都から受託した「都とチャールズ・ダーウィン財団連携協定事業」は、小笠原諸島の保全関係者のガラパゴスへの視察のコーディネートと同行であった。成果の詳細は東京都へ提出したが、CDF 研究者らへの面談記録をここに収めた→ <https://drive.google.com/file/d/1s34nONfEM-OzWXTHjMD8jPs1bNUp9VHY/view?usp=sharing>

(8) その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

■企業との協働やコラボレーションの企画を進めた。

【謝辞】役員の皆様には、全ての活動をボランティアにてご協力いただいた（奥野以外）。また、赤間亜希さん他ボランティアの皆さんにも多大なご協力を頂いた。この場を借りて御礼申しあげます。

2024年度（第20期：2024年7月1日～2025年6月30日）活動計算書

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

科目	金額(円)	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	250,000	
その他会員受取会費：個人/団体協力会員、学生会員	300,000	550,000
2 受取寄付金		
一般寄付	324,394	
企業/団体からの寄付：	6,419,085	
BESSフォレストクラブ支援協賛金		
カシオ計算機株式会社		
前田建設工業株式会社		
ベンギン基金		6,743,479
3 受取助成金	0	0
4 事業収益		
普及啓発事業（コーヒー・カレンダー）	402,227	
情報提供事業(写真使用料など)	35,000	
東京都委託事業	4,730,000	5,167,227
5 その他収益		
受取利息	1,668	1,668
経常収益計	12,462,374	12,462,374
II 経常費用		
1 事業費		
(1) ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業		
カレンダー事業、コーヒー事業、講演等	502,799	
(2) ガラパゴスに関連する情報の収集及び提供に係る事業		
ホームページ、SNSによる発信と情報収集	126,639	
(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業		0
(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業		
1) チャールズ・ダーウィン財団活動支援（海鳥P含む）	4,486,741	
2)チャールズ・ダーウィン財団スカラシアの森林再生P支援	2,174,654	
3)チャールズ・ダーウィン財団視聴覚資料デジタル化P支援	605,596	
		7,266,991
(5) ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業		0
(6) ガラパゴスに関連する調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業		0
(7) ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業		
東京都とチャールズ・ダーウィン財団連携協定事業(直接経費)	3,512,163	
		11,408,592
2 管理費		
シェアオフィス利用費	117,480	
事務局運営委託費	500,000	
通信費	46,357	
会議費	9,595	
交通費	16,300	
消耗品費	35,155	
保険料	6,758	
Webシステム利用料	77,410	809,055
経常費用計	12,217,647	12,217,647
当期経常増減額		244,727
法人税、住民税及び事業税		
当期正味財産増減額		70,000
前期繰越正味財産額		174,727
次期繰越正味財産額		3,462,260
		3,636,987

第20期(2024年7月1日～2025年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計貸借対照表

2025年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会
(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産 現金預金	3,721,987	
流 動 資 產 合 計		3,721,987
2 固定資産 土地 建物 車両運搬具	0 0 0	
固 定 資 產 合 計		0
資 産 合 計		3,721,987
II 負債の部		
1 流動負債 未払法人住民税等 前受会費	70,000 15,000	
流 動 負 債 合 計		85,000
2 固定負債 長期借入金 退職給与引当金	0 0	
固 定 負 債 合 計		0
負 債 合 計		85,000
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産 当期正味財産増減額		3,462,260 174,727
正味財産合計		3,636,987
負債及び正味財産合計		3,721,987

第2号議案 第21期2025年度(2025年7月1日~2026年6月30日)事業計画書

第21期の事業方針及び事業計画は、以下のとおりである。

(1) 環境教育・普及啓発事業

引き続き、環境への若い人たちの意識の高さが目立つことから、ガラパゴスの自然や保全、生態系保全と経済の両立関係に関するアウトリーチを行う。

日本とガラパゴスを繋げる様々な活動により、企業・団体間や個人間の関係性を深め、ガラパゴスにおける保全事業への支援に繋げる。日本の世界自然遺産地域の管理に資するガラパゴスの自然管理や観光管理について紹介する。

- * 「ガラパゴス写真コンテスト」開催、および「ガラパゴスカレンダー」制作、発行。
- * 当会理事や専門家から話を聞く「ガラパゴスセミナー」や「ガラパゴスの旅ガイド」のような講座(Web)の定期的な開催
- * ガラパゴスコーヒーに関して、JAGA が進めるプロジェクトの推進のために、企業や小売業者との協働、大学との連携、販売の促進、また産地偽装品一掃のための取り組みなどを進める。
- * 「体験学習ツアー」を企画・実施する。
- * その他、教育機関等での講演、講師の派遣、出版物への原稿提供や監修など。

(2) 情報収集提供事業

常にガラパゴス現地の最新情報を正確に収集すると共に、正しい情報を分かりやすく提供する。

- * ホームページの活用を推進する。ガラパゴスの情報を積極的に発信する。
- * メルマガ、ホームページ・SNS を活用した会員や一般向けの情報発信を行う。→人手/人材不足が課題。
- * 教育・科学機関、科学番組への協力・監修、マスコミ対応、情報・写真提供など、隨時。

(3) 環境問題全般情報収集提供事業

近年関心の高まる海洋廃プラ、ゴミ処理、アップサイクル、温暖化、リサイクル、SDGs などについて、情報収集・提供する。

(4) ガラパゴスの環境保全活動の支援

CDF が行っているプロジェクトを支援する。海鳥の生態調査、スカラシアの森林再生事業、CDF 視聴覚資料デジタル化事業を支援する他、CDF が行う緊急性の高い活動も支援する。必要に応じて島民団体や教育団体の草の根活動などへの支援を行う。現地との連絡を密にするほか、ツアーを活用して現地視察を実施し、ガラパゴスの現状やニーズについて把握し、必要な支援を行う。

(5) 国際協力事業

ガラパゴスのゴミ問題の解決に向け、関係機関や企業と連絡・連携を強める。

(6) 調査研究支援事業

小笠原とガラパゴスの研究者同士の情報交換を行うことで、双方の保全を促進する。

(7) 現地諸機関の運営支援事業

東京都からの委託事業として、ガラパゴスと小笠原を繋ぎ、双方の保全に資する活動を行う。8月1日には、「世界遺産小笠原、ガラパゴスとつながる」という講演会を既に実施した。

(8) その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

- ・企業や公的機関との関係を強化し、協働事業や支援の働きかけを行う。

第3号議案 役員選任（任期 2025年10月1日～2027年9月30日）

理事会より、次期役員の選任に関して、以下の提案および報告を行う（五十音順・敬称略）。

1. 理事の重任（9名）

清水 善和（理事長）
眞板 昭夫（副理事長）
奥野 玉紀
海津 ゆりえ
可知 直毅
櫻 博子
里見 嘉英
西原 弘
矢ヶ部（倉田） 薫子

2. 監事の重任（2名）

枝松 克巳
波形 克則

【備考：当会定款の規定（抜粋）】

（役員の種別及び定数）

第13条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 5人以上12人以内
- (2) 監事 2人以上4人以内

2 理事のうち1人を理事長、1人以上3人以内を副理事長とする。

（選任等）

第14条 理事及び監事は、総会において正会員の中から選任する。

2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

3 (略)

4 (略)

5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

以上